

平成25年12月期 第2四半期決算説明資料



クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

平成25年12月期 第2四半期決算概要

営業の経過及び成果

当第2四半期(平成25年1月～6月)におけるわが国経済は、新政権の経済政策や日銀の金融緩和に対する期待感から、円安・株高傾向が進み、中国・欧州の景気減速懸念等の不安材料は存在しているものの、輸出企業を中心に企業収益環境は徐々に改善し、国内景気も全体的には持ち直しの兆しが出てきました。

このような状況の中にあつて、当社は国内製造業の就業者数減にともなう産業用マスクの需要減を補うため、医療及びクリーン分野に重点を置いた取り組みを続けております。

当第2四半期は、産業用マスク需要の回復遅れとオープンクリーンシステム「KOACH」の受注計画未達に加え、前年対比震災特需の減少等により、売上高は34億68百万円(前年同期比19.1%減)となりました。

利益につきましては、震災特需の反動減を予想し、全社的経費の圧縮に努めましたが、原材料価格の高騰や新製品開発費用の増加等にもなう売上原価率の上昇で、営業利益は1億73百万円(同65.9%減)に、経常利益は1億46百万円(同66.9%減)と、計画を若干下回る結果となりました。四半期純利益につきましては、繰延税金資産の取崩による法人税等調整額の増加の影響で、63百万円(同77.4%減)となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

(マスク関連事業)

医療機関へのマスク販売では、使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズの高フィット性能が評価され、全国の保健所や感染症指定医療機関での採用が着実に進み、シェア拡大が続いております。その一方で、製造業の国内での設備投資意欲は依然として低調で、産業用マスクの需要については回復の遅れが見えます。そうしたことからマスク関連事業の売上高は、31億54百万円(同16.9%減)となりました。

なお、本年5月に市場参入を表明した家庭用マスクについては、その参入に当たり、当社が独自に取った子供の顔や呼吸等のサンプリングデータを基にしたマスク開発、マスクについてわかりやすく解説した「マスク読本」の企画・製作・配布、海外生産子会社稼働に向けた各種準備の展開、そして各メディアから寄せられたマスクに関する取材への協力など、新市場でのシェア獲得の準備を着実に進めております。そして家庭用マスクの先陣を切る子供用マスクは量産準備も順調に進み、当初の予定通り10月に販売を開始いたします。今回投入する高機能、高フィットを実現した新製品を子供用マスクのスタンダード品に育成して参る所存であります。

(その他事業／環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」については、展示会等により獲得した引き合い物件からの受注活動に努めました。しかし、引き合いから受注までの期間が想定よりかなり掛かる物件が多く、売上予想を下回りました。その分、継続検討物件数は積み上がって250件までになり、事業としての展望は期待通りとなっております。

全自動内視鏡洗浄装置「鏡内侍」については、採用ユーザー様にご登場して頂く消化管の医療専門誌の広告展開を行い、着実な実績を上げております。その一方で官公庁向けの浄化装置の受注は減少しました。

これらの結果、その他事業の売上高は、3億13百万円(同35.8%減)となりました。

業績の概要

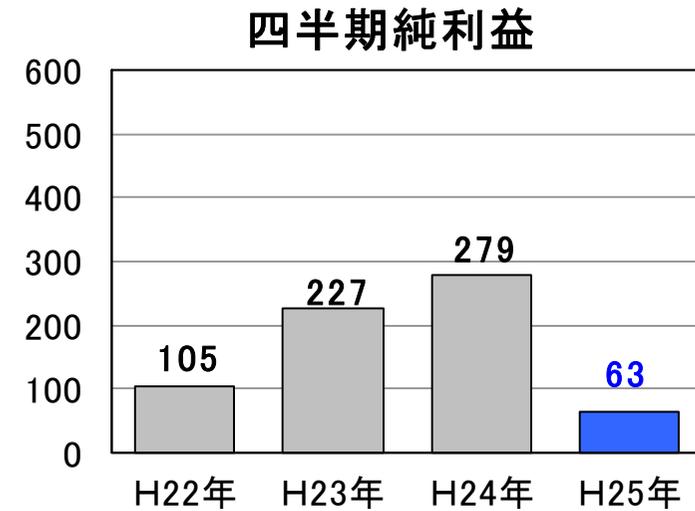
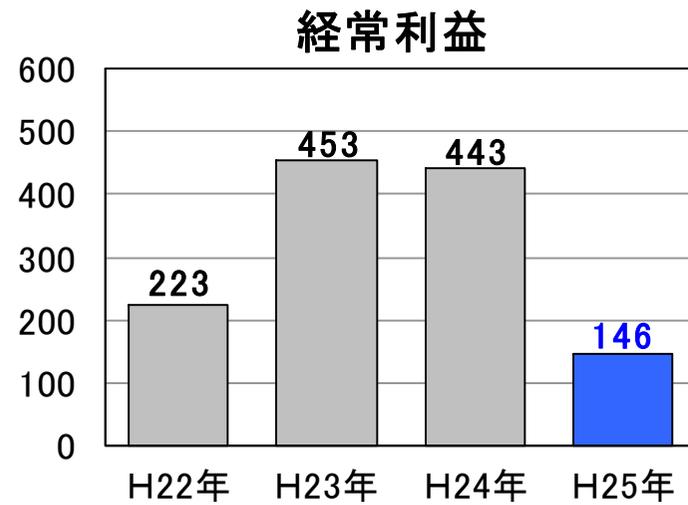
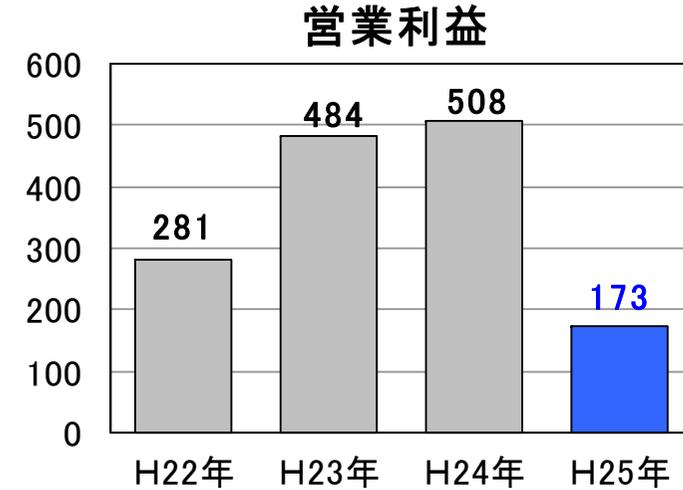
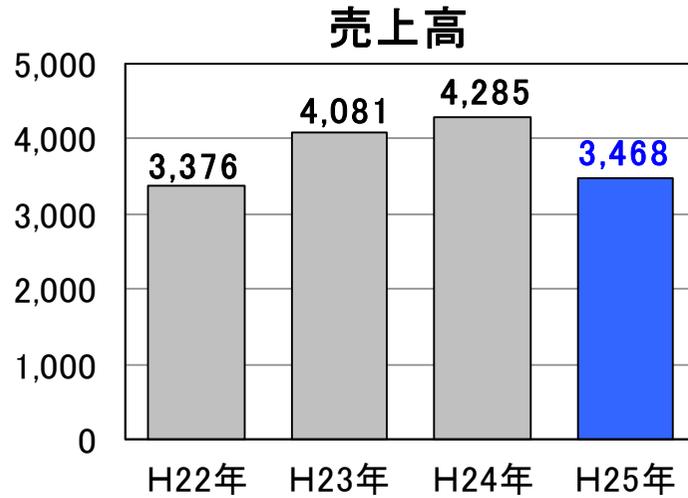
(単位:百万円/端数切り捨て)

	平成24年12月期 第2四半期		平成25年12月期 第2四半期		増減
	金額	比率(%)	金額	比率(%)	
売上高	4,285	100.0	3,468	100.0	△816
売上総利益	2,030	47.4	1,563	45.1	△466
営業利益	508	11.9	173	5.0	△334
経常利益	443	10.4	146	4.2	△296
四半期純利益	279	6.5	63	1.8	△216
1株当たり四半期純利益(円)	55.31	—	12.48	—	△42.83

	平成24年12月末	平成25年6月末	増減
総資産	15,966	15,501	△465
負債	7,318	7,029	△289
純資産	8,647	8,471	△176
自己資本比率(%)	54.1	54.5	+0.4
1株当たり純資産(円)	1,703.16	1,682.52	△20.62

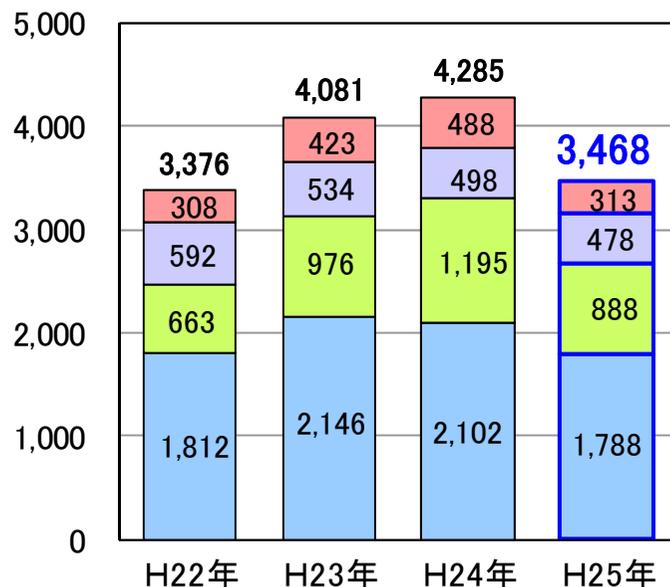
売上高・利益の推移

(単位:百万円/端数切り捨て)



セグメント別売上高の推移

(単位:百万円/端数切り捨て)



事業の状況	
■ マスク関連事業 (防じんマスク、防毒マスク、マスク関連その他製品)	全国の保健所や感染症指定医療機関など、医療分野のマスク販売は堅調でしたが、震災特需の反動や、産業用マスク需要の回復の遅れにより、対前年同期比16.9%減となりました。
■ その他事業 (環境関連事業等を含む)	全自動内視鏡洗浄消毒装置は、採用病院の登場する広告展開が進み、着実な受注を得たものの、オープンクリーンシステムは、引き合いから受注に至るまでの期間が予想より長く掛かり、売上予想を下回った結果、対前年同期比35.8%減となりました。

品目区分	平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 防じんマスク	1,812	53.7%	2,146	52.6%	2,102	49.1%	1,788	51.6%
■ 防毒マスク	663	19.7%	976	23.9%	1,195	27.9%	888	25.6%
■ マスク関連その他製品	592	17.5%	534	13.1%	498	11.6%	478	13.8%
小計	3,067	90.9%	3,658	89.6%	3,796	88.6%	3,154	91.0%
■ その他	308	9.1%	423	10.4%	488	11.4%	313	9.0%
合計	3,376	100.0%	4,081	100.0%	4,285	100.0%	3,468	100.0%

トピックス

◇展示会で「スリープモード付きフロアーコーチ」が大きな反響を呼びました

通常クリーンルームは、24時間稼働させてルーム内の清浄度を維持させなければならず、そのため夜間や休日等の作業休止時の消費電力に頭を悩ませている企業がたくさんあります。

当社は、このような電力問題を解決するため、ISOクラス1のスーパークリーンの状態を維持しつつ、大幅な省電力を可能にする新技術「スリープモード付きフロアーコーチEzp」を開発し、4月に開催されたFPD業界の世界最大の展示会「ファインテックジャパン」に出品いたしました。

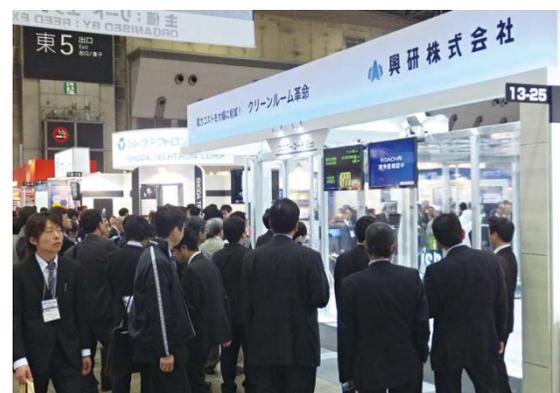
【展示会場で最高レベルのスーパークリーンを形成】

省電力の実現が大きなポイントとなった今回のデモンストレーションでは、パーティクルカウントのディスプレイに「フロアーコーチEzpの消費電力」も同時にリアルタイム表示しました。

スイッチを入れて5分ほどで、クリーンルームの最高レベルの清浄度であるISOクラス1(1m³当たり0.1μmの粉じん量が10個以下)のスーパークリーンの形成を一般のクリーンルームが必要とする電力の20~30%に当たる2kW弱という低消費電力で実現する様子をご覧くださいました。

【消費電力をさらに70%カットするスリープモード】

その後、「スリープモード」の実演を行いました。スイッチを押すとスライドスクリーンが開口部を閉じ、ISOクラス1の清浄度を維持しながら、消費電力を通常運転時の約70%カットの0.6kW前後にまで、さらに低下させる様子を確認していただきました。スリープモード時の消費電力は、一般のクリーンルームの1/10以下となり、この“超低消費電力”を目の当たりにされた来場者からは、驚きと感嘆の声が上がっていました。



来場者の熱い視線が注がれる「フロアーコーチEzp」

◇家庭用マスク市場への参入を決定しました

当社は、これまで産業用、医療用の市場を中心としてマスク事業を展開して参りましたが、この度、家庭用マスク市場への参入を決定いたしました。

【参入への経緯】

当社は、マスクのフィットの重要性に着目し、高フィットの製品づくりとともに「フィットの重要性」について病院や工場向けに啓発活動を行っており、その活動の一つである「マスクフィッティング測定サービス」の体験者数は、2013年6月末現在で24万人を超えております。

そして近年、震災後のアスベスト対策、PM2.5、鳥インフルエンザなど、マスクを必要とする事象が続き、当社への一般市民の方々からの注文や問い合わせが増加しております。またその際、子供用マスクの発売を要望する声も多く聞かれました。

これ等有害物から身を守るためには、一般市民の方々も高い防護性能を有するマスクの着用が必要と考えられ、特に被害を受けやすいとされる子供用を優先して開発し、販売することといたしました。なお、子供用のマスクについては、世界的にも規格が存在していないため、当社が独自に子供の呼吸や顔に関する様々なデータを取り、厚生労働省国家検定合格品と実質的に変わらない性能で、かつ成人用である使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズと同程度のフィット性を持つ製品を開発いたしました。

【取得したデータの内訳】

子供（+顔の小さな人）の顔にフィットするマスクの開発のために取得した主なデータは次の通りです。

- ・様々な動作時の呼吸サンプリング（波形、流量、ピーク流量）
- ・漏れ率
- ・顔面の形状データ

※これら取得したデータを基に、今後日本学校保健学会等で発表を行う予定です。

【今後の予定】

製品開発、量産化の準備も順調に整い、本年10月より新製品の子供用マスクを発売いたします。



写真上 新製品の子供用マスク
写真下 従来のハイラック350型

◇「マスク読本」の製作、配布を行いました

当社製のマスクは、産業分野のみならず医療分野においても採用が進み、特に使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズは、その高機能、高フィット性が評価され、保健所や感染症指定医療機関など、医療施設での感染対策用としての採用が拡大しています。また、新型インフルエンザやPM2.5の発生を契機として、官公庁、地方自治体及び一般市民の方々においても関心が高まっています。

そうした状況の中、当社はマスクメーカーとして、産業分野以外のこれまでマスクにあまり馴染みの無かった方々にも、マスクについて学んでいただくことが必要と考え、今回マスクについてわかりやすく解説した「マスク読本」を企画、製作し、官公庁や医療機関を中心に配布を行っております。配布先では、職員の方々への回覧はもちろん、来訪者にも読んでいただくために待合室に置かれるなど、読本の有効活用を行っていただいております。そして、あらためて当社に対してマスク講習会を依頼される事例も増えております。

【読本の主な内容】

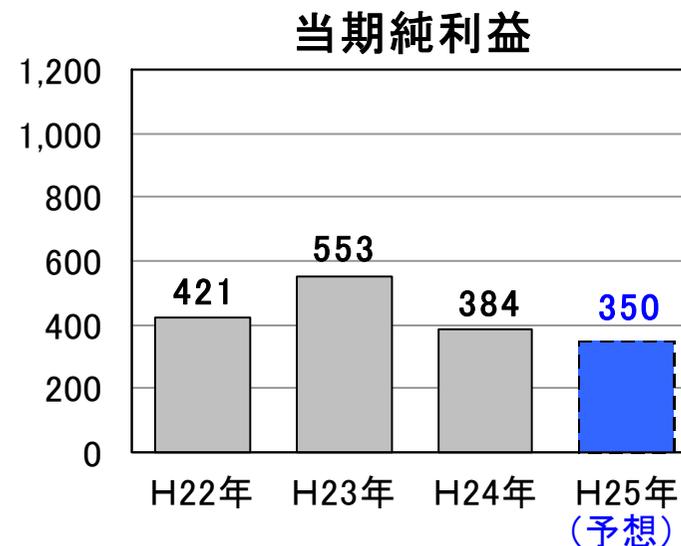
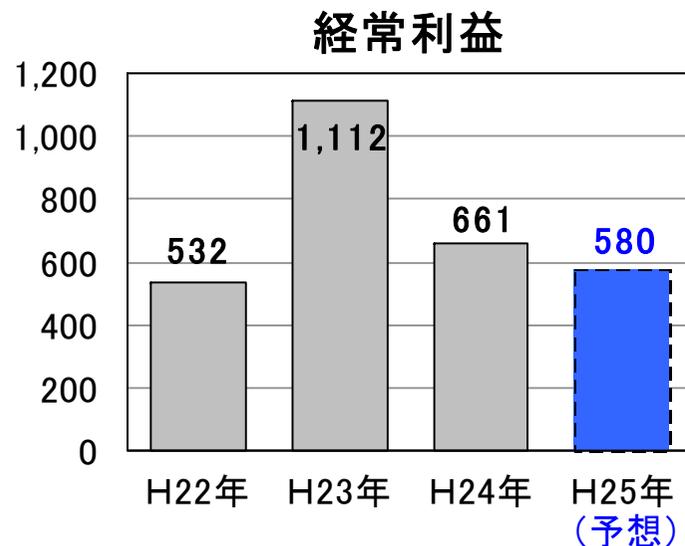
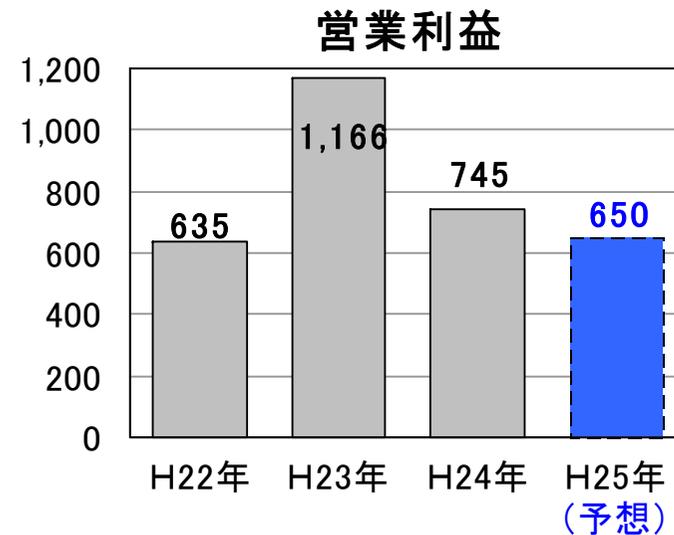
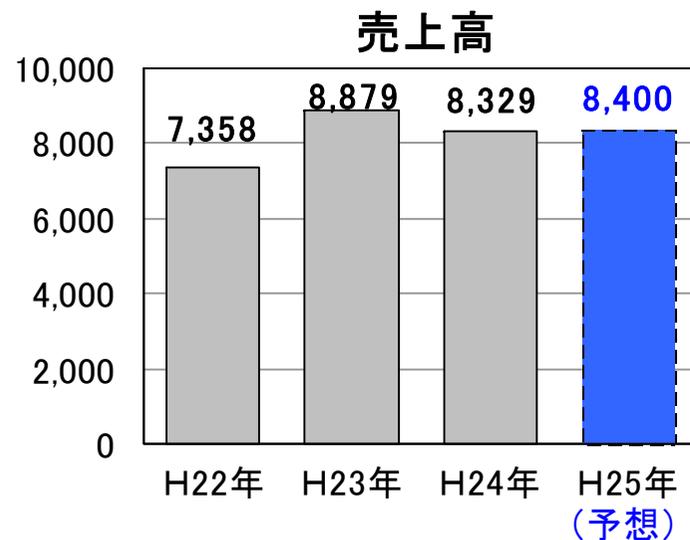
- ・マスクの種類や役割
- ・世の中に存在するさまざまなマスク
- ・粉じんの害(例)
- ・厳格な国家検定規格に定められた防じんマスク、防毒マスク
- ・フィットの重要性 など



平成25年12月期の業績予想

通期 業績予想

(単位:百万円/端数切り捨て)



※平成25年2月12日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成25年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）」発表日（平成25年7月30日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>